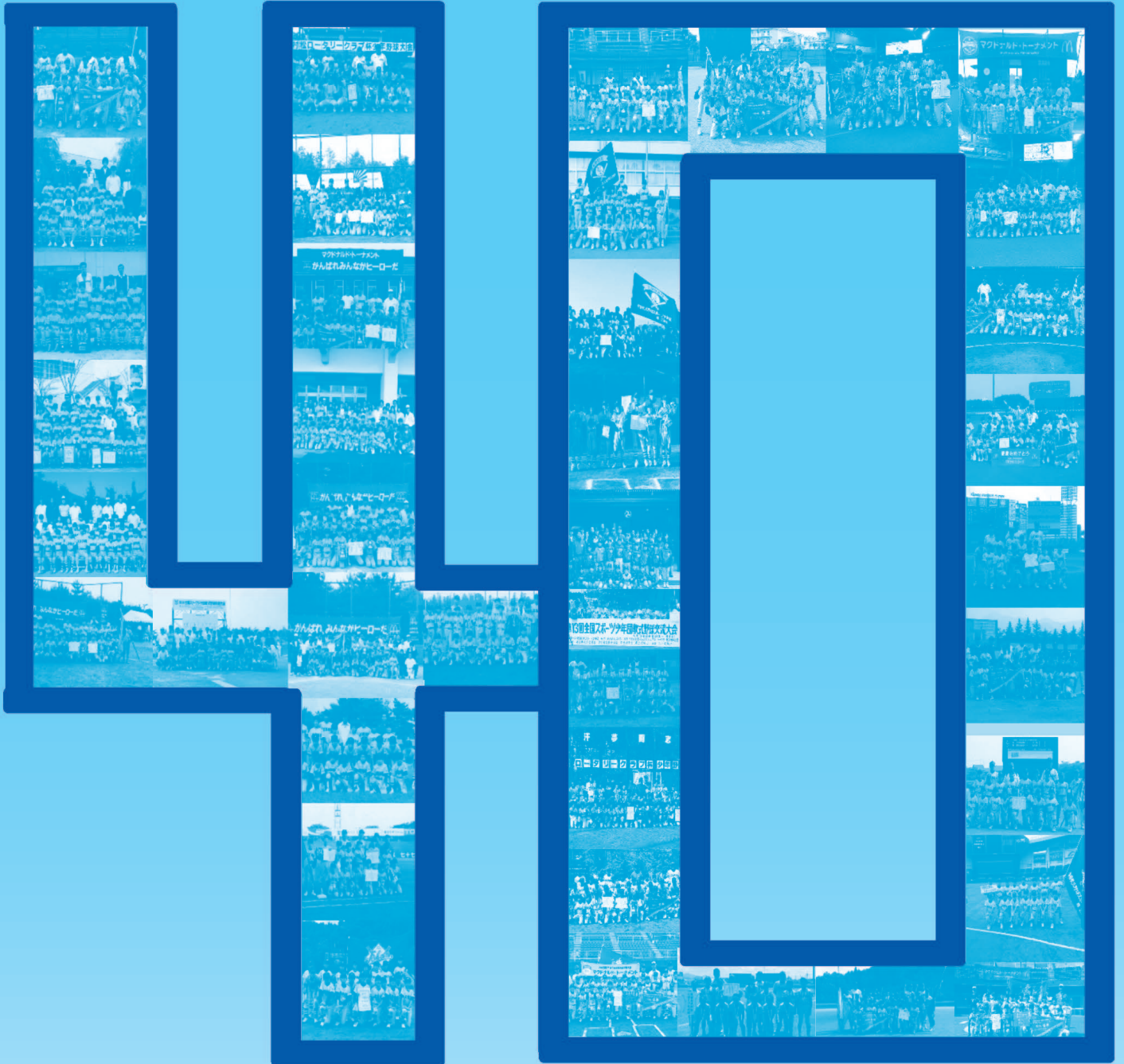


JOBAN



常磐軟式野球スポーツ少年団
創立40周年記念

目 次

はじめに	大平 清美団長	1
ご挨拶	渥見 伝代表	2
常磐40歳	天井 正之監督	3
第30回全日本学童軟式野球記念大会		4

● 常磐軟式野球スポーツ少年団あゆみ

1期～5期	1984～1988年	6
6期～10期	1989～1993年	7
11期～15期	1994～1998年	8
16期～20期	1999～2003年	9
21期～25期	2004～2008年	10
26期～30期	2009～2013年	11
31期～40期	2014～2023年	12～20

● 常磐軟式野球スポーツ少年団に寄せて

常磐軟式スポーツ少年団 団員	21
常磐キッズ団員	27
常磐軟式野球スポーツ少年団 卒団生	30
常磐軟式野球スポーツ少年団 指導者	36
常磐軟式野球スポーツ少年団・常磐キッズ父母の会会長	39
卒団生名簿・団員名簿	41





はじめに

常磐軟式野球スポーツ少年団
団長 大平 清美

常磐軟式野球スポーツ少年団が40周年を迎えました。「継続は力」をモットーに地域の小学生に野球の「いろは」を教えようとスタートした常磐スポ少ですが、今や全国大会の常連と言われるチームに育ちました。これもひとえにご支援、ご協力くださる関係者の皆様のお陰と感謝申し上げます、心から御礼申し上げます。

少子化に伴う野球人口の減少、習い事の多様化など学童野球を取り巻く環境は年々厳しさを増しております。その中でも、さきのWBC（ワールドベースボールクラシック）で日本中を熱狂させた野球の底力はいまだ健在です。一発勝負のWBCで優勝を目指して勝利のために真剣にプレーするプロ野球選手の姿は大きな感動を与えました。日本の野球界は多数のメジャーリーガーを輩出し、大谷選手のようにリーグMVP、HR王を獲得する選手も現れました。そうした、世界で活躍する野球選手も野球を始める入り口は地域の野球チームです。子供たちが野球をやりたい、プロ野球選手になりたい、と思う気持ちは昔も今も変わらないと感じています。我々は、そういった子供たちが常磐スポ少で野球を始め、小学生の多感な時期にチームメイトと切磋琢磨し、協力し合い「全国大会出場・日本一」の目標に向かって最大限努力できるチームであり続ける所存です。

最後に卒団生をはじめ、常磐軟式野球スポーツ少年団に携わっていただいた方々のご健勝をお祈りして節目のあいさつと致します。



創立40周年を迎え

常磐軟式野球スポーツ少年団
代表 渥見 伝

「常磐軟式野球スポーツ少年団」は1984年に福島県いわき市常磐に小学生の軟式野球チームとして誕生しました。当時、地元の旅館組合・青年会など地元有志の方々のご支援を頂き、現団長大平清美を中心に「ときわ台グラウンド」で活動を開始しました。創団から40周年の大きな節目を迎える事が出来たのは、いままで当団に携わって下さったOB・その父母の方々をはじめ、磐南野球連盟の皆様、いわき市学童野球連合会の皆様、地域の皆様、現父母の会の皆様の温かいご支援ご助力に支えられた賜物であると心より感謝し厚く御礼申し上げます。

私は、今から27年前（平成7年）息子が小学3年生の時、保護者として活動し息子が卒団した年に事務局として入団、そして7年前に代表として携わって参りました。まだまだ若輩者ですが今後ともご指導ご鞭撻宜しくお願い申し上げます。

常磐軟式野球スポーツ少年団は、「継続は力」と「全員野球」をスローガンに選手・指導者・保護者が一丸となり35回の全国大会出場、4度の全国制覇を果たしています。これからも楽しく、日々の練習を大切に「全国大会」を目指して団関係者一同協力してさらなる飛躍を目指していく所存でございます。



常磐40歳

常磐軟式野球スポーツ少年団

監督 天井 正之

湯本一小に不揃いのジャージで集まった12人での初練習、その中の一員として私も参加していました…あれから40年たくさんの方々を支えられて、常磐が40歳になりました。

私自身が、選手、コーチ、監督としてどんどん成長して行く常磐軟式野球スポーツ少年団とともに歩いて来られている事に喜びを感じています。常に県のトップを守り抜き、全国大会への出場回数は日本一。これまで常磐に関わった全ての方々のご尽力、そしてなによりも、全国大会という目標に向かって必死で努力する子ども達に敬意を表します。時代の変化とともに、競争意識をむき出しにすること、ライバル意識を持つことが、良くないことで恥ずべきことのような雰囲気は巷では伺えますが、そんな風潮に私は首をかしげます。現実には、当然、敗者には厳しいのが現実です。複雑な時代になったなと感じます。そんな時代の今だからこそ、何かの巡り合わせで、常磐に入団し、野球を教えさせてもらっている子ども達に対し、一つのこと（全国大会出場）に、本気で執念をもって取組めば、目標は必ず実現出来ることを知ってほしいし、立ち向かう心を鍛えてもらいたい。全国を掴み取った時の勝ち誇った子ども達の姿を見ることが監督としてなによりの嬉しい瞬間です。

さて、常磐の40年目の進化として、父母会に練習の補助をお願いする事にしました。中には、誰よりも上手にティー上げをしてくれるお母さんが居て、やってみるもんだな～と驚いているところです。大平団長が常々「全国大会に数回出場することは難しいことではないが、団を存続させて強いまま継続させていくことは容易いことではない」これまでもその言葉が沁みる瞬間が何度もあり、これからも直面することと思いますが、常磐愛を持ってみんなで協力し立ち向かって行きたいと思います。

41期生は6年生2名での船出ですが、新たな10年の始まりの年として、きちんと体制を作り、常勝常磐を継続して行くとともに、最近遠ざかっている学童の全国大会の上位進出へ向けての流れを作り上げて行きたいと考えております。そのために、心に流れるブルーの血を沸騰させて、子ども達とともに全力で頑張りたいと思います。私も来年は50歳まだまだときわ台に向かいます。

最後にいつも常磐を気にかけてくださる、OB父母そして常磐の宝であり300人を超えたOBのみんなに感謝申し上げ、常磐40歳の挨拶とさせていただきます。





27期生全国制覇の軌跡

磐南予選

- 1回戦 16-0 江名グランパス
- 準決勝 2-0 小名浜少年野球教室
- 決勝 4-0 勿来少年野球教室

福島県大会

- 1回戦 16-0 大熊町野球スポーツ少年団
- 2回戦 7-0 小金井ブレーブス
- 準決勝 5-0 小野町野球スポーツ少年団
- 決勝 3-2 勿来少年野球教室

全国大会

- 1回戦 3-1 大谷ドリームス(東京)
- 2回戦 3-1 判田少年野球クラブ(大分)
- 3回戦 3-0 上灘少年野球クラブ(鳥取)
- 4回戦 1-0 菟野野球少年団(三重)
- 準決勝 4-1 白老町緑丘ファイターズ(北海道南)

- 決勝 10-3 宮ノ陣フラワーズ(福岡)

記録的な猛暑だった夏を制したのは、東北の雄・常磐軟式野球スポーツ少年団だった。出場17度目、これまで2度、決勝に進みながら、あと一歩及ばなかったが、ついに全国1万5000余チームの頂点に立った。8年前と、その3年後の決勝、相手はいずれも長曾根は2-3、2-7で敗因のひとつは攻撃力の弱さだった。チーム顧問の天井前監督を託された60歳のベテラン橋本幸三監督が、攻撃を徹底的に鍛え上げた選手たちは1日1000スイングにも及んだ特訓にも歯を食いしばって力をつけた。両エースとも疲労もピーク。決勝は、序盤から点の取り合いとなった。1回戦からの5試合で3失点のエース、石井彪人君が4回までに3失点する苦しい展開。勝負を決めたのは自慢の打力だった。2点リードの5回、4安打を常磐は日本一の練習をしている」直接、長曾根を倒すことは出来なかったが、決勝では3回戦長曾根を破った宮ノ陣に打ち勝った。天井前監督も感無量。

東北勢の優勝は、第6回の牛島スポーツ少年団(秋田県)以来24年ぶり高円宮賜杯は初めて(大)公式グラフより抜粋)



実った！日本一の練習！常磐、悲願の日本一



決勝									
大田スタジアム									
鳥取軟式野球少年(福岡)	2	0	3	0	4	1	0	10	
常ノ陣フワーズ(福岡)	1	0	0	2	0	0	0	3	

開始時間 13時20分(1時50分)
 本 北川、相模(常) 審判 山室、石丸、森賢、千木良
 三 石井、熊田(常) 大庭2、神代亮(常)

打	安	打	安	打	安	打	安	打	安	打	安	打	安	打	安	打	安	打	安	
草野	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
石井	4	2	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
相模	4	2	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
北川	4	2	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
早坂	4	2	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
熊田	4	2	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
石井	7	3	7	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3



R.H. 27期主将

全国大会の試合はほとんど全て記憶に残っていますが、正直説明するのは難しいです。予選や他の大会では毎試合10得点に近いくらい点を取っていたのに全国大会では決勝前まで平均3点くらいしか取れず、フラストレーションもありましたが常磐の野球の最大の強みは守りです。挟殺プレーや牽制の練習に1日3時間も使うチームは全国を探しても中々いないと思いますし、誰も文句を言わずに取り組み何試合に1回あるかないかのプレーにこれだけ磨きをかけようとするところが本当に大好きです。そういった緻密なプレーの練習に真剣になっていたからこそ僅差でも焦ることなく守り勝つ野球が出来たのだと思います。決勝戦前は緊張はなく、コーチ陣も熱く送り出してくれて溜まっていたもの、出せる全てを出して日本一になった時は全員が泣いていたと思います。



常磐スポ少のあゆみ

*** 1984~1993 ***

1984年(昭和59年)

4月17日創立。

大平監督を先頭に初練習は8名でスタート。

6月3日「第4回全日本学童いわき市予選大会」が初試合。初勝利は秋の磐南会長旗杯。

1985年(昭和60年)

「第5回全日本学童いわき市予選大会」で準優勝。初の県大会出場(1回戦敗退)。

「全国スポ少交流大会いわき市予選大会」は優勝。県大会は1回戦敗退となった。

1986年(昭和61年)

スポ少①

「第6回全日本学童福島県大会」準優勝。2位で東北大会に進むも同じ相手に敗れ全国大会出場はならず。

「第8回スポ少交流全国大会」初出場。1回戦滋賀県代表に敗れるも全国大会初出場という歴史の1ページ目を綴った。

1987年(昭和62年)

スポ少①

学童県大会出場も1回戦敗退。

続くスポ少交流県大会は準優勝。連続出場を目標にするも新地ブルーハリケーンに阻まれる。

1988年(昭和63年)

学童①スポ少①

「第8回全日本学童全国大会」初出場。県大会決勝戦で宿敵小名浜を9-0で破り悲願の全日本学童全国大会初出場。静岡県で開催。1回戦香川県に2-9で敗退も創立5周年に華を添えた。

1989年(平成元年) 学童①スポ少②

「第11回全国スポ少交流全国大会」出場。
1回戦は和歌山県を追い上げきれず惜敗。



1990年(平成2年) 学童②スポ少③

「第10回全日本学童全国大会」2回目の出場。
県大会決勝で小名浜を延長の末破り、全国大会
出場。「第12回全国スポ少交流全国大会」連続
出場。学童は福岡県、スポ少は三重県と対戦も
どちらも初戦突破ならず。



1991年(平成3年) 学童③スポ少④

「第11回全日本学童全国大会」連続出場。念願
の初勝利。勢いのまま3勝しベスト8。
「第13回全国スポ少交流全国大会」3年連続出
場。4勝し悲願の全国優勝！歴史に残る1年と
なった。



1992年(平成4年) 学童④スポ少⑤

「第12回全日本学童全国大会」3年連続出場。
のちの福岡ソフトバンクホークス杉内俊哉を
擁する福岡県代表に0-3で敗退。



1993年(平成5年) 学童⑤スポ少⑥

「第13回全日本学童全国大会」4年連続出場。
1回戦沖縄県に6-8と惜敗。
「第15回全国スポ少交流大会」2年ぶり出場。
広島県5-3、三重県4-0、徳島県3-0の
3試合中2試合完封し決勝戦進出。
決勝戦は雨天中止のため2チーム優勝となり2
度目の全国制覇を達成。創立10周年の集大成
「継続は力」を証明してくれた素晴らしいチー
ムだった。





* 1994~2003 *

1994年(平成6年) 学童①スポ少⑤

「第14回全日本学童全国大会」5年連続出場。
6年生が少ない中で永山、山形の2枚看板で
山口、茨城、宮崎県を撃破しベスト8。
秋の大会は出場した大会すべてに優勝。投打に
優れたチームだった。



1995年(平成7年) 学童⑦スポ少⑤

「第15回全日本学童全国大会」6年連続出場。
前年度のレギュラーが多数残り、順調に県大会
を突破した。全国大会でも期待されたが、初戦
の栃木県に7-8の逆転負けと悔しい結果と
なった。この年よりマクドナルド・トーナメント
となりペナントが授与された。



1996年(平成8年) 学童⑦スポ少⑤

6年生が多く比較的早い時期に仕上がり、新人
戦は無敵の快進撃。
学童・スポ少県大会ともに決勝戦は小名浜が
相手だったがいずれも最終回に逆転負けを喫
する。東京ドームの野球教室に参加する。



1997年(平成9年) 学童⑧スポ少⑥

「第17回全日本学童全国大会」2年ぶり出場、
2回戦で北海道代表に惜敗。
「第19回全国スポ少交流大会」2年ぶり出場、
打力のチームであったが学童の敗戦を糧に守備
面の強化に奮起し見事準優勝。
この年より「高円宮賜杯 全日本学童軟式野球
大会 マクドナルド・トーナメント」の名称と
なった。



1998年(平成10年) 学童⑧スポ少⑦

「第20回全国スポ少交流大会」2年連続出場。
順当に勝ち進み決勝進出。決勝戦は愛知県
1-3と惜敗も2年連続準優勝。
この年、3番セカンドの橋高和世が活躍し注目
の女子選手としてマスコミなどで話題に。
その後2004年に女子ワールドカップ日本代表に
なった。

1999年(平成11年) 学童⑨スポ少⑦

「第19回全日本学童全国大会」2年ぶり出場。
1回戦高知県を破るも2回戦で長野代表に敗れる。常磐、小名浜2強の年。



2000年(平成12年) 学童⑩スポ少⑧

天井新監督就任。
「第20回全日本学童全国大会」2年連続出場。
「第13回全国スポ少交流大会」2年ぶり8回目の出場。
2大会とも全国ベスト8。



2001年(平成13年) 学童⑩スポ少⑧

6年生が少ない中で全員一丸となって戦ったが、
全国大会出場権は得られなかった。
この年の悔しさが、後輩たちに受け継がれて
翌年以降の活躍の糧となった。



2002年(平成14年) 学童⑪スポ少⑧

「第22回全日本学童全国大会」2年ぶり出場。
県大会決勝で小名浜を延長の末、5-4で破った勢いをつなげ全日本学童で快進撃を進め決勝進出。大阪代表に2-3で惜敗するも、全日本学童初の準優勝を獲得。全国制覇が手の届くところまで来ている事を実感できた一年となった。



2003年(平成15年) 学童⑫スポ少⑧

「第23回全日本学童全国大会」2年連続出場。
1、2回戦を突破したが3回戦は滋賀代表に逆転負け。小柄なチームであったが、機動力を活かし存分に戦った。





* 2004~2013 *

2004年(平成16年) 学童⑩スポ少⑧

「第24回全日本学童全国大会」3年連続出場。
1回戦高知代表の好投手を破るも2回戦千葉県に敗退。キャプテン清水を中心とした頭脳野球が印象的だった。



2005年(平成17年) 学童⑩スポ少⑧

前年からのレギュラーが多数残り「第25回全日本学童全国大会」4年連続出場。決勝進出も大阪府に惜敗。2回目の準優勝。この年常磐が全国大会のルールを変える先駆者になる。
(学童、スポ少交流の同年出場不可)



2006年(平成18年) 学童⑩スポ少⑧

「第26回全日本学童全国大会」5年連続出場。
3回戦の新潟県との戦いでは9点差を逆転する粘りのチーム。準決勝は7回2アウトランナー無しから大阪府に逆転負けも見事3位。



2007年(平成19年) 学童⑩スポ少⑧

全日本学童福島県大会決勝で小名浜に敗れる。連続出場が途切れるも、気持ちを切り替え「第29回全国スポ少交流大会」出場。準決勝では因縁の大阪府に6点差から逆転勝利しその勢いそのままスポ少交流3度目の全国優勝を達成。



2008年(平成20年) 学童⑩スポ少⑧

新チーム結成時、歴代最弱だったが、歴代一のガッツと努力で「第30回全国スポ少交流全国大会」2年連続出場。初めて全員で優勝旗を返還した。
大会結果は努力が実り見事3位。

2009年(平成21年) 学童⑯スポ少⑪

橋本新監督就任。「第29回全日本学童全国大会」3年ぶり出場。この年、初めて神宮球場で開催。2回戦沖縄県に完封勝利するも3回戦鳥根県に敗れ結果はベスト16。



2010年(平成22年) 学童⑰スポ少⑪

「第30回全日本学童全国大会」2年連続出場。1回戦東京都、2回戦大分県、3回戦鳥取県、準々決勝三重県、準決勝南北海道、決勝福岡県と次々と破り、悲願の全日本学童日本一。日本代表(現U-12)としてアジア大会に出場。台湾に敗れるも準優勝を獲得。



2011年(平成23年) 学童⑱スポ少⑪

前年度優勝枠にて「第31回全日本学童全国大会」出場。惜しくも初戦敗退だったが、開会式の優勝旗返還の大役を立派に果たした姿は圧巻だった。



2012年(平成24年) 学童⑲スポ少⑪

「第32回全日本学童全国大会」4年連続出場2回戦、神奈川県に完封勝利。3回戦大阪府に最終回2アウト満塁、一打逆転まで追い詰めるも敗れベスト16。



2013年(平成25年) 学童⑳スポ少⑪

全日本学童福島県大会で小名浜に敗れ全国大会の出場は逃したが、出場権を得た東北学童野球大会で優勝。



2014年(平成26年) 31期生

学童⑱ スポ少⑪

2015年(平成27年) 32期生

学童⑳ スポ少⑪



天井監督2期目。5年生中心のチームで基本をしっかりこなした一年。学童県大会は初選敗退したもののスポ少交流県大会は優勝。南東北大会で敗れ惜しくも全国大会出場はなかった。



前年の悔しさを知る選手たちがチームをけん引し、全日本学童福島県大会は、地元の声援を背に躍動。決勝では南部スタジアムで相馬東部との熱戦を制し、「第35回全日本学童全国大会」出場。惜しくも初戦で奈良県に敗れた。

S.M. 32期生

常磐軟式野球スポーツ少年団、40周年おめでとうございます。卒団してから8年が経ちますが、常磐スポ少での6年間は今でも鮮明に残っています。私たち32期生は、上の学年が少なかったこともあり、5年生から多くの選手が試合に出場したくさんの経験をさせていただきました。なかなか勝てず、悔しい思いも多くなりましたが、天井監督をはじめ指導者の皆様が本気で私たちとぶつかって下さったおかげで、立派なチームに成長することが出来ました。常磐が毎年のように全国大会へ出場することが出来ているのは間違いなく、天井監督の指導力のおかげだと私は思います。天井監督から教わる緻密な野球は中学、高校と上のレベルまで必ず通用します。今後も常磐らしい野球で、いわき市や福島県の学童野球を引っ張って行ってほしいと思います。



2016年(平成28年) 33期生 学童⑩ スポ少⑫



全日本学童、スポ少交流両県大会とも決勝で小名浜に惜敗。スポ少交流県代表として南東北大会を勝ち上がり「第38回スポ少交流全国大会」出場。徳島県、栃木県を破り見事3位。チームワークが良く、6年生6名は「努力の天才」と呼ばれた。

O.K. 33期主将



まず初めに40周年おめでとうございます。この伝統あるチームで選手としてプレーできたこと、さらには主将を務めさせていただいたこと、心から嬉しく思います。私が常磐に入団したのは、小学3年生の頃でした。それから常磐キッズでは野球の楽しさを学び、常磐にあがってからはレベルの高い先輩方や素晴らしい指導者の方々のもとで野球の基礎の部分をお教えいただきました。なかでも守備・バント・走塁は、大学生になった今でも、他の選手よりも評価していただくことが多くとても感謝しています。もちろん野球だけでなく、挨拶や礼儀のことについても指導していただき、上のレベルで野球をやるにつれ、それらの大切さを知ることができました。私が常磐で教えていただいたこと、また全国大会や色々な大会を通して培った経験、毎日継続する大切さをこれからの大学生活、その先の人生でも忘れずに頑張ります。指導者の方々もお体に気をつけて頑張ってください。



2017年(平成29年) 34期生 学童① スポ少⑫



全日本学童、スポ少交流、ガスワン、県児童の主要福島県大会を制覇。決勝はすべて相馬学童との対戦だった。「第37回全日本学童全国大会」2年ぶり出場。1回戦神奈川県、2回戦新潟県を破ったが3回戦で大阪府に敗れベスト16。

A.S. 34期主将



常磐軟式野球スポーツ少年団、創立40周年おめでとうございます。私が常磐で野球を始めたのは保育園の年長の時でした。その年は、東日本大震災や原発事故が発生し、放射線などの心配もあり、外では遊べない時期でした。そんな時に、常磐が体育館で練習をしていることを知り、見学に行ったのが始まりです。その時は、全国大会に出場する強豪チームだとは知らず、体育館でみんなと運動やキャッチボールができるのが楽しくて入団しました。そんな私が、中学、高校と野球を続けてきたのは、常磐での7年間があったからです。チームのみんなと、本気で全国大会優勝を目指し、毎日ときわ台に通い、ひたすらに練習したあの日々があったからこそ今の自分があるのだと思います。「継続は力」とおり、努力すれば夢は叶うということを学びました。私は、これからも常磐で学んだことを忘れず、一生懸命に努力していきたいと思います。



2018年(平成30年) 35期生 学童②1 スポ少⑫



磐南予選でこの年強かった小名浜から劇的な勝利を奪い、その勢いのまま県大会に臨むも敗退。秋は好成績だっただけに春先の予選の難しさを感じた年だった。
また29年ぶりに磐南地区以外の代表が全日本学童全国大会に出場した。

K.O. 35期主将



この度は常磐軟式野球スポーツ少年団40周年おめでとうございます。私が常磐でプレーしていたころから早くも5年が経ち、今は高校球児として日々甲子園を目指し練習に励んでいます。小学2年の時に初めて常磐キッズの練習に行き緊張していた私をあたたく迎え入れてくれたことを今でも覚えています。最初はすぐやめると思っていたのですが、少しずつ上達して行く楽しさと、仲間達と絆が深くなっていくことで続けることを決めました。それから小学6年までたくさんの試合、辛くて苦しい練習を乗り越えてきました。私たちの学年では全国大会出場こそ叶いませんでしたが、東京ドーム、ZOZOマリンスタジアムなどで試合をしめったにできない経験をさせていただきました。何よりうれしいことは常磐時代の仲間達と今も交流がある事です。私は常磐で野球が出来て幸せでした。





磐南予選を磐石に勝ち進むも、全日本学童福島県大会決勝、勿来戦で荒天に苦しみ準優勝。続くスポ少交流県大会もベスト4で敗退。それでも秋のローカル大会は新チームとの融合が進み好成績を収めた。

K.A. 36期生



常磐軟式野球スポーツ少年団創立40周年誠にありがとうございます。僕たち36期は目標である全国制覇を達成することはできませんでしたがこのチームで学んだことは今僕の大切な財産になっています。現在僕は高校1年生ですがこのチームのスローガンである「継続は力」という言葉は今でも僕の大切なものです。野球をするときも私生活のときでもこの言葉を意識しながら過ごしています。現在の僕は高校で背番号1番を取れるように努力をしています。このチームで学んだことを活かして頑張ります。





新型コロナウイルスの影響ですべての全国大会中止。秋に行われた「第40回全日本学童福島県大会」は万全の投手力と守備力で優勝。初参加したポップアスリートカップは福島県大会、さらに南東北大会も優勝。この年より投手70球制限が始まり学童野球の戦い方が変わる節目となった。

N.M. 37期主将



常磐軟式野球スポーツ少年団、40周年おめでとうございます。卒団して3年が経過しますが、常磐での野球生活は充実し仲間との最高の思い出です。自分たち37期生は、新型コロナウイルスの影響もあり、全国大会中止、他のローカル大会も近年と比べ少ない年でした。自粛期間もあり、なかなか仲間と練習が出来ませんでした。全国制覇という目標は誰も諦めなかったと思います。全国大会中止となってしまいましたが、この高い目標があったからこそ良い成績が残せたと思います。そして天井監督をはじめ指導者の皆様が毎日厳しい指導をして下さったおかげです。今後も常磐で身に付けたものを活かして頑張っていきたいと思います。常磐軟式野球スポーツ少年団のこれからの活躍を応援しています。





6年生4人で挑むも磐南予選敗退。目標の県大会に進めず悔しい思いをしたが、ガスワン福島県大会で優勝。本大会はコロナウイルスまん延により直前で中止決定。ポップアスリートカップは2年連続福島県大会優勝も全国大会出場をかけた南東北大会で準優勝とあと一步だった。

H.H. 38期生



僕は今中学2年生です。6年間の常磐での時間はとても良いものでした。自分は1年生から野球をはじめ、今に至ります。最初はつまらなかったのですが段々と上手くなってきてからレギュラーを取りたいと思い始めました。4年生からレギュラーになり使っていただいて思い出がたくさんできました。特に4年生の時の県大会決勝の満塁の場面で打席が回ってきたときは緊張しました。次の年の全国はコロナウイルスのため無くなってしまいました。でも県大会決勝のにしのだとジャイアンツ戦は今までで一番の良い思い出であり一番の良い経験でした。優勝したあの時の嬉しさは今でも覚えています。そして自分の年ではあっさりとして負けて悔しい気持ちの半面、自分が一番経験しているのに引張れなかったことへの情けなさがありました。優勝も何回か出来たけど、やっぱり学童を獲れなかったことが一番の悔しいことです。常磐で過ごした6年はとても充実していました。苦しい日も楽しい日も泣いた日もあったけど「仲間」という存在の大きさを実感した生活でした。





2022年(令和4年)5年ぶりに「第42回全日本学童全国大会」出場。この年より熱中症対策で分散試合となり1回戦は明治神宮球場ナイター試合。しかしコロナ感染でベストメンバーが組めず北海道北代表に初戦敗退。ガスワン本大会にも初出場するも、新座選抜に敗れた。この年より学童野球は6回制になった。

S.S. 39期主将



創立40周年おめでとうございます。僕にとっての常磐軟式野球スポーツ少年団は、野球と出会って、野球を覚えて、野球を経験して、野球を今後も続けたいと思わせてくれたところです。自分がいた39期生は6人です。学校が違うみんなと毎日一緒に練習をして、たくさんの大会に出場しました。勝つ喜びも負ける悔しさも一緒に感じながら成長しました。卒団した今も、それぞれ別の場所で野球を頑張っています。39期の仲間と、先輩達、後輩達と一緒に野球を経験できたこともぼくの人生の大切な一部になりました。そして、僕たちに厳しくも愛情を持って指導して下さった天井監督を始め、団長、総監督、村田監督、コーチのみなさんへの感謝の気持ちを忘れずに野球を続けていこうと思っています。最後に、全国大会最多出場チームとして今後も全国制覇を目指して、強いチームであり続けてほしいです。ぼくは39期生であることを誇りに、ずっと応援していきます。





全日本学童福島県大会は全試合コールド勝利。「第43回全日本学童全国大会」2年連続出場。1回戦北海道南代表に勝利するも、2回戦東京第2代表に0-1の惜敗した。県児童を含め他のローカル大会も軒並み優勝し40周年の記念の年に好成績を収めた。

N.H. 40期主将



ぼくは1年から野球を始め3年までは週末だけの楽しい野球をやってましたが、4年になり楽しいから勝つための辛い野球に変わりました。でも6年生の練習試合を見てたら自分達と足の運びや球速などが全然ちがく、自分も将来6年生のようになりたいと思うようになりました。監督達の教えてくれることもむずかしくなり毎日が大変で辛かったですが、誰よりも上手くなりたいと思い必死に夕練でも練習し4年の秋にレギュラーをつかむ事ができ、5年では全国大会を経験出来ました。新チームでは主将を任せてもらいましたが、自分に自覚もなくみんなに迷わくもかけましたが、少しずつ自覚も芽生えて「自分達の40期を創りたい」と仲間と努力しました。今年も自分達の代で全国大会に出場でき、常磐で野球をしたから沢山の経験をしました。団長、監督、コーチ達が健康でこれからも長く常磐野球が続きますように。



常磐軟式スポーツ少年団



R.O. 湯本一小 6年

ぼくが常磐に入団したのは2年生の秋にキッズからでした。入団した時はキャッチボールもできなかったぼくを、できるようにしてくれたのは、監督やコーチのおかげだと思ってます。ショーバンとるのがうまいなど言われたのが今でもうれしく思ってます。キッズを卒業して、「常磐軟式野球スポーツ少年団」に入りました。毎日の練習をがんばりました。4年生の時の試合で、ベンチでしたが、出たら活躍してやると思って最終回に代打で出て、ツーベースヒットを打って試合の流れが変わってチームが勝ったのを覚えてます。その時から野球は楽しいと思って練習も一生けん命やりました。5年生になって全国大会で神宮球場に連れて行ってもらいました。ベンチに入る事もできたし、球出しもさせてもらいました。こんな所で野球をやってみたくて目標が出来ました。6年生になって、少しだけ試合も出れるようになって県大会に勝ち、全国大会に出場して1回戦はファーストを守りました。2回戦では途中から出て、それまでは「ぼくを出してくれ」と心の中で強く思っていました。試合は1対0で負けてしまいました。くやしくてくやしくて、泣きました。ぼくはこのくやしさをやる気に変えてこれからもがんばっていきたくて思います。かんとか、じょかんとか、コーチ、団長ありがとうございました。

R.N. 磐崎小 6年

ぼくは3年生の秋に入団しました。ぼくはセンスもなく自分に自信が持てませんでした。4年生になりライトの練習を頑張りました。ですが試合に出れず悔しかったです。5年生になり試合でライトを守りライトゴロでアウトにしてほめられたのを覚えてい

ます。そしてセンパイ方が全国大会に連れて行ってくれました。試合に出してもらい、四球で塁に出てホームを踏みましたが負けてしまいました。その時全国で優勝したいと思いました。6年生で試合に出れるようになりました。キャッチボールからピッチングという所へ変わり、ピッチャーになりました。とても嬉しかったです。全国直前自分の体の異変に気づき肘が痛くなり、やはり骨がはがれていました。信じられないくらい辛くて泣いてしまいました。ですが努力を続け、全国大会の2試合目に出ることが出来ました。が、チャンスで三振。悔しい、辛くて泣いてしまいました。全国での悔しさを忘れずポップアスリートで絶対優勝します。自分に厳しく。



M.M. 泉小 6年

僕が入団したのは年中の時僕のおじさんが8期生、いとこが35期生と39期生で、その影響で常磐に入団しました。キッズから常磐に上がる時、全国大会に行きたいという目標が出来ました。4年生5年生と三塁コーチでした。なかなか試合に出れず悩んでる時「コーチーズボックス」「フィールドプレーヤー」は同じと言う言葉をもらいました。その言葉をお守りに胸を張ってコーチーズボックスに入りました。僕の判断で点数が入った時は嬉しかったです。6年生になりいよいよ全国大会！開会式ではプラカードを持ち入場行進しました。神宮球場はすごい迫力で改めて全国大会のすごさを感じました。結果は2回戦で敗れてしまいました。今まで目標にしてきた大会だったのでもっと上へ行きたかったけど、本気でやった結果なので悔いはありません。僕の常磐での3年間は色々ありました。それもいい思い出です。改めて40周年おめでとうございます。

継続は力

D.W. 内町小 6年

常磐軟式野球スポーツ少年団が今年で40年を迎えます。僕は小2の4月から常磐で野球を始めて、最初は野球の楽しさが全然分かりませんでした。友達と話をしていたら野球が楽しく感じてきました。3年生になったらオレンジボール大会や練習試合で試合に出れた事がとてもうれしかったです。キッズを卒業して4年生から新たに常磐に上がり、とても練習が厳しくてなかなかついていけませんでした。でも必死についていこうと歯をくいしばり一生けんめいがんばりました。その結果自信もついたらホームランも打てるようになりました。5年生の時全国大会に連れて行ってもらい、今年も自分達6年生が全国大会に出場しましたが惜しくも2回戦敗退で悔しい思いをしました。常磐軟式野球スポーツ少年団には40年を迎えてたくさんの先輩方がいます。これからも強いチームでありますように心から応援しています。40周年おめでとうございます。



R.O. 湯本二小 6年

僕は年中に上がってすぐに常磐キッズに入団しました。入団したきっかけはお兄ちゃんが先に入団していたからです。常磐野球をして8年になりますが常磐野球は今年で最後になります。僕達が目指していた全国制覇にはなりませんでしたが、40周年の節目の年に全国大会の切符を勝ち取り神宮へ団長、監督、コーチみんなで行く事が出来て良かったです。試合は2試合で終わってしまったけれど、小学生の甲子園と言われている神宮へ行き、みんなで全力プレー出来た事が良かったです。常磐に入団していなかったら今の仲間とも神宮へ来れなかったし、僕達を神宮へ行けるように今まで指導してくれた団長、監督、コーチに感謝です。そして、野球を続けさせてくれた両親にも感謝しています。常磐野球を出来るのは残り少ないですが全大会を優勝して悔いのな

いように全力プレーをしたいと思います。これからもこの先もずっと強い常磐でいてほしいです。

K.U. 湯本一小 6年

ぼくは1年生の春に常磐キッズに入団しました。入ったころはなかなか打てなかったし、取ることも出来ませんでした。くやしくてお父さんとたくさん練習しました。3年生の時オレンジボール大会で2打席ランニングホームランを打った時はとても嬉しかったです。常磐に上がると毎日夕練があつて練習もきびしかったので慣れるまでとても大変でした。6年生で守備がレフトになったけどぼくはあまり上手ななかったので、いつも本田コーチが近くで教えてくれました。毎日きびしい練習にたえてぼく達40期は県大会で優勝して、目指していた全国大会が決まった時は飛び上がって喜びました。神宮球場を2年連続で行進しました。初戦をとっばして2回戦は接戦でした。最後まであきらめずみんなで戦いましたが、1対0で負けてしまいとてもくやしかったです。これからもあきらめない気持ちを忘れず頑張つていきます。



S.T. 磐崎小 6年

ぼくは小学2年生の3月に常磐キッズに入りました。キャッチボール、バッティング、守備の練習がすごく楽しかったです。3年生になると、オレンジボール大会で試合ができたことがうれしかったです。4年生からは常磐に上がり、本格的に野球の練習が始まりました。一番きつかったのは、冬のトレーニングでした。試合ではコーチャーをやり、色々な事を覚えることができました。5年生の時に6年生が全国大会に出場することができて、ぼくも全国大会に行って、神宮球場で試合がしたいと思いました。6年生になって、バッティングでは、なかなか結果が出せずくやしい思いをしました。でも、団長、監督、コーチのみなさんに教えてもらい、打て

るようになってうれしかったです。目標だった全国大会に出場できて、試合ではヒットは1本だけけど、守備でチームにこうけんできたので良かったです。神宮球場で試合ができて最高の思い出になりました。

H. K. 磐崎小 6年

ぼくは第40期という節目の団員になれて光栄に思います。野球を始めたきっかけは、本多希光君と小澤莉仁君にさそわれて3年生の夏に常磐に入団しました。4年生になっても皆とのレベルの差があり少しはずかしかったのを覚えています。なので、くやしくて一生けんめい練習をがんばって、ぼくは捕手になりました。練習や試合をやっていって、今までに肘を2回こわしています。その期間は野球ができず、とてもつらく苦しい日々でした。でも走り込みやキャッチャートレーニングをして持久力をつけました。肘がよくなって、もう一度捕手にもどり、だんだんと活やくも出来て楽しかったです。5年生の終わりに捕手から投手になりました。得意なのはインコースと変化するボールです。常磐に入って最大の目標である高円宮賜杯の全国大会に今年の夏、出場することができました。そこで最速101キロを出すことができました。結果は2回戦敗退で、とてもうれしい思いをしたので、ポップアスリートでは全国制覇をしたいです。



R. S. 高久小 6年

僕が常磐に入団したのは、1つ上の先輩の鈴木颯馬くん(39期主将)にさそわれて体験会に行ってみたら楽しかったからです。ぼくが全国大会を目指し始めたのは、3年生の時です。理由は、37期生の学童県大会決勝戦を見て、すごいなと思ったからです。4年生になってキッズとはちがい、厳しい練習になりました。初めはつらかったけど、どんどんなれて

楽しくなってきました。5年生になって全国制覇を目標にして毎日一生けんめい練習しました。学童全国大会に出場できてうれしかったが1回戦敗退でした。これをバネに来年は全国制覇したいと思いました。6年生でも学童全国大会を決めました。全国では1回戦を勝ってうれしかったが、2回戦で敗退。とてもくやしかったです。これからも、常磐でおしてもらったことを忘れず、がんばっていきたいと思います。



Y. H. 湯本二小 5年

僕は5年生です。野球は年中から始めました。初めは野球のことが全然わからなくて見てるだけでした。小学生にあがってからは野球のことがいろいろわかるようになって野球の楽しさを知りました。3年生に上がってから新人戦に呼ばれるようになってとても嬉しかったです。4年生になって試合に出れるようになって今まで以上に全国大会を目指すようになりました。オレンジカップの時は優勝し特別賞をもらって嬉しかったです。夏にはマクドナルドトーナメント全国大会に出場したけど自分の力が出せず負けて悔しかったです。5年生に上がり2度目のマクドナルドトーナメント全国大会出場を決め初戦突破できて嬉しかったです。2回戦は東京代表不動パイレーツからなかなか打たせてもらえず、1点差を逆転するためにみんなで声を出して頑張ったけど負けてしまいました。これからも練習をたくさん頑張ってみなんと3年連続全国大会出場一緒に戦った先輩たちが出来なかった全国制覇をしたいです。

R. K. 磐崎小 5年

ぼくは第41期生でJOBANの団員です。野球を始めたきっかけは、兄が友達からさそわれて、兄の野球のプレーする姿を見て楽しそうだなと思い入団しました。キッズに入って初めは野球のことを何も知り

ませんでした。投げ方や打ち方、グローブの使い方など基本のことを教えてもらいました。JOBANでは、高円宮賜杯全日本学童軟式野球大会を目標にしてがんばっています。第40期生には兄の鯨岡飛勢がいます。今年の夏に第43回高円宮賜杯全国大会に兄と一緒に行きました。素晴らしい大会だったので、やっぱりこの全国大会にはまた出場したいです。そのためには、ぼくの得意なバッティングを極めるために練習をたくさんしたいです。今の守備位置はファーストで、止めることが大切なのでもっとがんばります。かんとく、団長、じょかんとく、永山コーチこれからもよろしくお願いします。そして、創立40周年おめでとうございます。



S.S. 好間一小 4年

僕は小学1年生の6月に常磐キッズに入りました。キッズのときはいつもオレンジボール大会がありました。だから、オレンジボール大会がいつも楽しかったです。あと、3年のときに楽天の大会があって県大会で優勝して、東北大会で2位になりました。今は、常磐にあがりずっとショートをやっていたけど新チームでキャッチャーをやっています。ぼくは、必ず全国大会にでて優勝をめざしています。ぜったいに優勝したいのでこれからもがんばって練習します。

H.Y. 小名浜三小 4年

常磐軟式野球スポーツ少年団、40周年おめでとうございます。ぼくが野球をはじめてからもう少して2年がたちます。はじめはキャッチボールもできなくてとてもやさしかったです。4年生になって、キッズから常磐に上がり、団長やかんとくから「ばかたれ」と言われることがあるけど、ぼくたちの代でも

全国大会に行ってゆう勝したいから、これからもたくさん「ばかたれ」と言われながらも、強いチームになりたいです。みんなで力を合わせて強い常磐になって団長やかんとくたちをよろこばせたいので、これからもよろしくおねがいします。



K.N. 広野小 4年

「決意」ぼくは、常磐で野球を始めてから次のようなことをおもうようになりました。まず、この間の全国大会で負けたくやしさは今までにけいけんしたことのないくやしさに泣きました。そのけいけんをわすれずに毎日練習を一生懸命やって全国せいはいします。そのためになかまと一緒にがんばります。そしてみんなでよろこびたいです。高校生になったら甲子園でやりたいので、もっともっと野球を勉強して上手になりたいです。大人になったら坂本選手みたいにかっこいいプロ野球選手になりたいです。

K.W. 湯本一小 4年

創部40周年おめでとうございます。僕は小学校4年生から入団しました。入団前は、別の野球チームでプレーしていましたが、もっと野球が上手になりたい、強いチームでプレーして試合に勝ちたいと思い入団しました。最初は、練習のきびしさと、先輩達のレベルの高さにおどろき、これから練習に付いていけるか不安でしたが、みんな仲良くしてくれ、少しずつ慣れていくことができました。今年も全国大会に出場し、先輩の活やくする姿を見てあこがれを持ちました。僕も全国大会の舞台上でプレーし、優勝できるよう、毎日の練習にしっかりとばげみたいと思います。

継続は力

K. K. 明德小 4年

ぼくが常磐軟式野球に入ったきっかけは毎日できるだけたくさん野球の練習をしたかったからです。練習の中でバッティングが一番好きです。練習は、大変でつらい時もあるけど、それいじょうに野球ができる事が楽しいです。これから、もっときつい練習がふえるけど、ぼくはまだまだなので、たくさんがんばります。走ることも、あきらめないで少しでもはやくなれるようにがんばります。ホームランがたくさんうてるようにもっともったがんばります。野球を全力で楽しみます。



Y. S. 平二小 4年

ぼくは1年生の時に常磐キッズに入団しました。入団しようと思ったきっかけは、体験会でバッティングをした時に、かんとくから「ナイスバッティング」と言ってもらった事がうれしくて、もっと野球をやりたいと思ったからです。かんとくやコーチの指導のおかげで取れなかったボールも取れるようになり、試合にも出れるようになりました。初めて試合に出た時はとてもうれしかったです。3年生の冬に、常磐スポ少に進級しました。練習はきびしくてつらい時もありますが、全国大会でプレーするという目標のために、毎日の練習をがんばりたいと思います。かんとく、コーチのみなさん、これからもきびしいご指導よろしくおねがいします。

T. M. 磐崎小 4年

ぼくは年長のとき常磐キッズに入りました。お兄ちゃんが野球をやっていたから、ぼくも野球を始めました。最初はルールも分からなくて、キャッチボールもできなかつたし、バッティングも全然ボールに当たりませんでした。でも練習をして少しずつできるようになりました。今年初めて全国大会に行って、神宮球場での開会式の行進は、けっこう緊張し

ました。試合は負けてとてもくやしくて、もう一度全国大会に行って、優勝したいと思いました。最近、試合に出て打つこともできるようになりました。毎日の練習は少しきついけど、がんばって強くなって全国大会に行きたいです。



S. O. 磐崎小 4年

僕は常磐軟式野球スポーツ少年団に小学3年生の7月に入団しました。それまで水泳を習っていましたが、お父さんが小学校の時に入団していたという話を聞いて、きょうみを持ったので野球をはじめてみることにしました。野球の練習に通うと楽しいと思うようになって、だんだん本気で練習をするようになりました。野球をはじめて一番うれしかったことは、今年の公式戦で初めてレギュラーで出れた時にヒットを打てたことです。でも、その一回だけで試合にはあまり出ることができていません。お父さんには試合に出たければ練習するしかないと言われる。自分では一生けん命に練習しているつもりだけど、まだまだ足りないようです。最後に、今後の目標はレギュラーになってホームランを打つことです。そして仲間と本気で練習して全国ゆう勝します。

H. T. 上遠野小 4年

ぼくは3年生の初めに常磐キッズに入りました。それまではソフトボールをやっていたけど、お父さんに野球をやってみないかとさそわれキッズの体験に行き、そのまま入団することにしました。最初はまともにキャッチボールやバットにボールを当てる事ができませんでした。たくさん練習してボールが取れるようになったり、打てるようになったりしてどんどん野球が好きになりました。野球が楽しく、もっと上手になりたくて常磐スポ少に入ることにしました。キッズの時は内野を守ってたけど、外野を守ることになったり、右打ちから左打ちにかわった

りました。最初はフライをエラーすることが多かったけど、かんとくやコーチにボールのおいかたや取り方をおそわり、取れることがふえてもっと野球が楽しくなりました。今年も全国大会に出れたけど、6年生になったら全国大会でゆう勝して、天井かんとくを日本一のかんとくにしたいです。



K.O. 鹿島小 4年

ぼくは1年生の時に常磐キッズに入りました。キッズでは、バッティングをするのが楽しくて好きでした。試合でヒットを打てた時はうれしかったです。常磐にあがってからは、冬の練習の走り込みがめっちゃきつくてつらかったです。常磐は練習の日も多いから、バッティングも守備も上手なれそうな気がします。ぼくは体が細いと言われるので、たくさん食べて大きくなって試合でホームランを打ってみたいです。楽しい練習もつらい練習も頑張って、もっと強くなって、全国大会で優勝することがぼくの目標です。

E.S. 長倉小 4年

ぼくが常磐に入った理由は、お兄ちゃんが常磐で野球をやっていたから自分も野球をやりたいと思い、常磐に入りました。ぼくは今、ピッチャーとセカンドとショートを守っています。たくさん練習をして、守備のかたい選手になって、たくさん素振りをしてヒットを打てるバッターになりたいです。そして、チームのみんなと全国大会に行けるようにがんばります。



常磐キッズ

T. T. 磐崎小 3年

ぼくは、小2の夏に友だちにさそわれて、常磐軟式野球スポーツ少年団に入団して一年がたちました。入ったばかりのころは、キャッチボールもできませんでした。練習していくうちに、少しずつとれるようになってきました。強い打球やフライはまだまだとれないけれど、さい近は少しずつ打てるようになってきたのが今は楽しいです。試合でまけるとくやしいので、もっと練習をがんばって八月におうえんをしに行った六年生たちが出場したマクドナルド杯にぼくたちも出られるように練習をがんばってもっと今よりうまくなりたいです。



T. W. 中央台東小 3年

ぼくは、一年生から常磐キッズにはいりました。はじめのころは、ボールをなげたりうったりすることができなかつたけど、かんとくやコーチにたくさん教えてもらったおかげで、少しずつできるようになってきました。常磐チームの全国大会を見に行くと、おにいさんたちのすがたがとてもかっこいいと思えたので、ぼくもいっしょうけんめいれん習して、全国大会に行くと、ゆうしょうしたいです。

K. I. 湯本三小 3年

じょうばんなんしき野球スポーツ少年団40周年おめでとうございます。40年という歴史の中には、たのしい、うれしい、くるしい、色々な思いがあつての40年だと思います。40年のいろいろな人の協力があつてのじょうばん野球であり、じょうばんの伝とうだと思います。ぼくもじょうばん野球の一員になったので40年のいろいろな人の思いのバトンを受けとったと思い、これからのじょうばんの50周年、60

周年と、バトンをわたしたいと思います。ぼくもじょうばんの歴史の一ページになります。

H. S. 湯本二小 3年

ねんちようから野球をはじめました。両親がグローブとバットとボールとユニフォームとぼうしなどをそろえてくれました。なにを見てもびっくりしました。みんながとてもうまいので、がんばって練習してうまくなるしかありませんでした。家のちかくの広っぱでキャッチボールやバッティングをしているうちにだんだんすきになりました。2年生になり友だちともなかよくなりもっと野球がすきになってきました。練習も楽しくなってきました。3年生になり野球のルールもよくわかるようになり、ますます野球にむちゅうになり、今では一番すきになりました。一生けんめいお父さんや仲間と練習してしょうらいはプロ野球選手になりたいです。しょうらいのゆめにむかってこれからもがんばります。

K. S. 磐崎小 3年

僕は今年、キッズのキャプテンをやっています。夏に神宮球場での全国大会を見て僕もあの場所に立ちたいと思いました。40年の先輩たちに負けないように頑張ります。



K. T. 中央台東小 3年

ぼくは、じょうばんに入って大切な仲間ができました。試合で打てなかつたりエラーをしても仲間が助けてくれて勝ったときは、うれしくてぼくもがんばろうとやる気が出ました。だけど、ホームランを打っても、良いプレーをしても負けたときは、くやくてなみだが出ました。でも、仲間がなくさめてくれて心強く思いました。ぼくは、もっと練習してうまくなって試合に勝ちたいです。そして、大好きな野球をずっと続けていきたいです。

K.K. 平五小 3年

ぼくは、野球が上手になりたくて、1年生の冬から常磐キッズに入団しました。今やっているセンターでは、ヌートバーみたいにスライディングキャッチができるようになりたいです。これからの目ひょうは、ピッチャーになることです。ピッチャーになって、はやい球を投げたいです。バッティングでは、ホームランをうつのが目ひょうです。ぼくはこれから、しゅびでもバッティングでもかつやくしたいです。



K.O. 赤井小 2年

ぼくは、やきゅうのれんしゅうをがんばって、大谷せん手みたいに、ピッチャーをやって、はやいボールをなげて三しんをとりたいです。そしてバッティングではホームランをうてるようなせん手になりたいです。そのためには、ごはんをたくさん食べて大きくなって、はやいボールをなげてホームランをうてるパワーをつけたいです。そしてプロやきゅうせん手になって、アメリカに行ってメジャーリーグでかつやくしたいです。

H.S. 鹿島小 2年

ぼくは、小さいころからいえのにわで、やきゅうをしてあそんでいました。それがたのしくて、やきゅうがすきになりました。今は、うてるように、まい日すぶりのれんしゅうをしています。ホームランをうちたいです。そして、甲子園にいきたいです。

O.M. 平二小 2年

ぼくは、こうえんでおとうさんと、ボールをなげたり、うったりするのがすきで、やきゅうをはじめました。今日は行きたくないなと思う日もあるけど、おもしろいボールをキャッチできたり、ヒットを

うったりすると、もっとやりたい!と思います。大谷せんしゅみたいに、つよいあいてに立ちむかっていけるように、れんしゅうするぞ。

M.M. 磐崎小 2年

ぼくは、お兄ちゃんがじょうばんキッズに入ったから、ぼくも入りました。いまはバッティングのれんしゅうがいちばん楽しいです。バットを思いきりふって、ヒットになるとうれしいからです。ぼくの夢はドラフト1いでプロやきゅうせんしゅになることです。そのためにれんしゅうをもっとがんばりたいです。

H.S. 湯本三小 2年

40しゅう年、おめでとうございます。ぼくは、6年生になったらふくしまけん大会をゆうしょうして、マクドナルドトーナメントに出たいです。そして、めいじじんぐうでやきゅうをしてみたいです。なので、かんとく、コーチ、これからもやきゅうをおしえてください。ぼくは、いっしょうけんめいやきゅうをがんばります。



T.H. 湯本三小 2年

ぼくは、キャプテンになりたいです。どうしてかという、キャプテンになって声を出したいからです。キャプテンになったら声かけをしたり、教えたりします。そのためには、野きゅうのべんきょうをしなきゃできません。じょうばんがぜんこくせいはいできるように、ほめて、もり上がった、ベンチにいても、声を出したりしたいです。

継続は力

S.N. 広野小 2年

ぼくは、おにいちゃんがじょうばんでやっていたので、じょうばんキッズに1年生から入りました。さいしょはへたくそだったけど、れんしゅうしてうまくなっていくのがうれしいです。ぼくはやきゅうがだいすきなのでいっぱいれんしゅうして全国大会でゆうしょうできるようにがんばります。

K.I. 磐崎小 1年

ともだちとやきゅうをがんばるために、じょうばんキッズにはいりました。もくひょうは大谷せんしゅのようにバッティングがうまくなりたいです。



Y.K. 磐崎小 1年

ぼくのもくひょう。ぼくのしょうらいのゆめは、プロやきゅうせんしゅです。ジャイアンツのさかもとせんしゅみたいになうてるショートになりたいです。そのためにれんしゅうをたくさんしてじょうずになって、しあいにでれるようにがんばります。そして、がくどうのぜんこくたいかいにでたら、ゆうしょうできるようにみんなでちからをあわせてがんばります。

T.S. 湯本一小 1年

ぼくは、やきゅうが大好きです。うまくなりたいので、よくお父さんとれんしゅうをしています。ホームランをうつときもちいなので、もっとうてるようになりたいです。なげるれんしゅうもして、ピッチャーもやりたいです。マクドナルドはいでゆうしょうして、せんだいいくえいにはいって、こうしえんにでるのがもくひょうです。



H.T. 磐崎小 1年

ぼくは、やきゅうをしてからうまくなりたいとおもっています。こうしえんにでてかつやくをみせたいです。これからもかんとくやコーチにいっぱいおしえてもらってれんしゅうをがんばりたいです。1ねんせいのみんなどいっしょにれんしゅうをしてぜんこくたいかいにいきたいです。

Y.H. 湯本一小 1年

ぼくがやきゅうをはじめたきっかけは、WBCをみてかっこいいスポーツだとおもったからです。キャッチボールやバッティングなどをたくさんれんしゅうして、なかまとじんぐうきゅうじょうでしあいができるようにこれからもがんばります。



継続は力

JOBAN

卒団生の聲



O.I. 1期主将

【常磐軟式野球スポーツ少年団創立40周年に寄せて】
常磐軟式野球スポーツ少年団創立40周年、誠におめでとうございます。団の掲げる「継続は力」このモットーを、指導陣・選手・父母が40年脈々と受け継ぎ実践してきたからこそ、これまでの数々の輝かしい成績を残してきたのだと思います。私がコーチをさせていただいた時、今でも鮮明に思い出せることがあります。JOBAN初の全日本学童全国制覇を果たした翌年の2011年3月11日、東日本大震災が起きました。原発の爆発により団員はバラバラに避難し、再度団員は集まりましたが、原発・放射能問題でときわ台での練習再開の見通しは立たない状況。そんな状況のJOBANに手を差し伸べてくれたのは長年お付き合いのある茨城県の友好チームの監督さんたちでした。「常磐さんには長い事お世話になってきたから！茨城県のチームレベルを上げてくれたのも常磐さんが交流してくれたからこそ！そのお礼だから！茨城に来て野球しよう！」と。茨城県での交流戦が終わり、最後に大平団長が茨城の皆さんにお礼の挨拶を。大平団長が涙で途切れ途切れになりながら、「今まで本気で子供たちと向き合い続け、茨城の皆さんと球縁（きゅうえん）を繋いで交流を続けてきて本当によかったです」と。この言葉と感泣にむせぶ姿、茨城の監督さんたちが団長に「いいの！今までのお礼！」と言ったあの場面は忘れられません。これも「継続は力」を大事にしてきたJOBANだからこそ。成績とは違った部分での「継続は力」だと思います。私の父はコーチとし

て、私は1期生として、そして息子は45期生として活動させてもらっております。親子3代にわたり、全国でも名を馳せ、40年の歴史を誇る常磐軟式野球スポーツ少年団に携われることを大変嬉しく、また誇りに思います。「継続は力」の旗印のもと、これからも前進をつづける常磐軟式野球スポーツ少年団の前途に栄光あれ！

M.K. 3期主将

創立40周年おめでとうございます。8人でスタートしたときわ台の初練習、今でも鮮明に覚えています。私にとってはあっという間ですが、天井監督、大平団長、コーチ陣の皆さん、事務局の皆さんにとっては毎日が真剣勝負、戦いの日々だったと思います。本当に感謝いたします。今年も神宮球場にいつもの常磐野球を観に行きました。何度見ても感動をもらいます。40年伝統を守りながら確実に変化している野球のスタイルにも毎回感心させられます。私は今、小さな会社を経営しておりますが、野球から経営のすべてを学んできたことを50歳目前に改めて感じているところです。競争をさせない、調べたらすぐ答えが出る、根性論が嫌い、楽しければいい、こんな時代の中でも勝つために努力することによって得られたものは、かけがえのない一生の財産になりました。自分で考えること、目標を持つこと、行動すること、仲間を大切にすること、そして野球ができることに感謝すること、団員の皆さん現在も部活などで野球を続けているみなさんも、感謝する気持ちは絶対に忘れないでください。まだまだ恩を返すことができませんが、OBとして、常磐ブルーのファンとしてこれからも応援し続けて行きます。



継続は力

Y.W. 25期主将

この度常磐軟式野球スポーツ少年団創立40周年を迎え誠にありがとうございます。私は第25期のキャプテンを務めておりました。小学2年生から常磐キッズに入団し6年生まで常磐スポ少でお世話になりました。当時新人戦で早々と敗退し常磐史上最弱チームと言われてのスタートでしたが、少年野球日本トップレベルの監督、コーチ関係者のみなさまのご指導のおかげで全国大会に出場し、3位と言う結果を残すことができました。毎日の練習は、とても厳しかったですが日本一を目指してチームのみんなと一丸となり乗り越えた時間は、今となってもかけがえのない思い出です。常磐スポ少では、野球の技術だけではなく、精神面、礼儀、継続することの大切さを教えていただきました。今でも社会に出て精通する部分が沢山あり常磐スポ少で野球が出来ていたことに感謝しております。最後になりますが、監督、コーチ関係者の皆様40周年おめでとう御座います。これからも益々のご活躍を応援しております。



T.H. 25期生

この度は、常磐軟式野球スポーツ少年団創立40周年、誠にありがとうございます。私は、25期の卒団生となり、投手を務めておりました。小学2年生の頃、体験練習に参加したことをきっかけに入団させて頂きました。入団してから卒団するまで、日々の練習や練習試合、大会に全力で打ち込んでいたことを今でも思い出します。特に、冬の走り込みや基礎トレーニングは、人生で1番厳しく辛い練習でした…しかし、その練習のおかげで試合に勝つことができ、努力することの大切さと勝つことの喜びを学ぶことが出来ました。また、「史上最弱」と言われた25期ですが、最終的には全国3位の結果を残すこと

ができました。これは、監督やコーチが諦めずに指導してくれたからだと思います。全国大会でプレーできたことは、その後の中学・高校での野球や社会人での生活に大変活かせる経験となりました。これから先、常磐軟式でプレーする皆様には、是非全国大会に出場して頂き、人生のプラスにして頂ければと思います。最後になりますが、改めまして創立40周年おめでとうございます。これからも、「常磐軟式野球スポーツ少年団」の益々のご活躍を祈念しております。



R.H. 27期主将

新チームが始まり、秋の大会といえばスラッガー杯と、東北新人戦です。当時は新型インフルエンザの流行もあり主力メンバーが良いコンディションで試合に臨めず、スラッガー杯は準優勝でした。もちろん勝つことにこだわって取り組んできた以上言い訳は出来ませんしするつもりもありませんでしたが、コーチや監督達にはかなり檄を飛ばされたことを覚えております。東北新人戦では未完成ではあるものの、自分達がやりたい野球で優勝をすることが出来ました。ですが翌日の練習で緩い雰囲気があるとコーチが一喝してくださった事もあり、改めて目標の全国制覇へ向けて練習に取り組んできました。全体練習前の走塁自主練習で自分達なりに真剣にやっていたのですがその後一旦集合がかかり、全体練習前に長い時間怒られ続けて練習前から涙を流している選手もいた事は印象に残っています。冬の練習は辛いと選手全員がわかっていましたし、自宅に帰って夕食を食べてる途中ですら寝てしまうほど身体的にも追い込まれていましたが、弱音を吐いている仲間がいなかった事もあり本当にきつい期間も一致団結して乗り越えてシーズンに入りました。学童の本大会ではチームの流れも良く、一人一人が

やるべきことをやっており、例えばバッティングが得意ではなかったり上手くない時は守備や走塁に加えバントや四球でチームの役に立つことを意識し、エラーをしたら攻撃で取り返すなど、負けん気の強さが自分達の最大の強みであると思います。勿論、人間なので不仲であったり喧嘩であったり人間関係も色々ありましたが全員が勝つことを意識して取り組んだ結果、春からほとんど全ての試合で勝ち続けることが出来ました。磐南予選の決勝では、相手のチーム（勿来）の2番手から4点を取り勝ちましたが、試合後のミーティングでは2番手から4点しか取れないならお前達はこの先は勝てないと言われ、心に火をつけられたことも覚えています。

今だから言えることですが、県大会の初戦に勝ち、2回戦の相手が決まる前にスタンドで観戦していた際、小金井ブレーブスの選手達の体格、振りの鋭さを見て自信を喪失しかけてた事も印象に残っています。ですが試合が始まると大差で勝利し更に自信を深めて準決勝と決勝に臨むことが出来ました。

決勝の相手も勿来少年野球教室で相手のエースは本当に良い選手でしたし、相手のスタイルも自分達と少し似ているチームでした。予選とは違い、追いかける展開でしたが粘り強さと応援のおかげで勝ち、全国大会へ出場しました。

全国大会の直前の練習試合で千葉県代表のチームと試合をしましたが力負けし、ミーティングで反省や改善方法を全員で考え更に練習後には坂ダッシュを繰り返して追い込みもしました。

自分達の上の世代の常磐は体格も良く、プレーに力強さもあり、あの先輩方でも勝てなかったのに自分達で本当に勝てるのか？と疑っていた時期もありましたがコーチや監督含め、自分達を勝たせるためにサポートをしてくれた全ての方のおかげで自信を持って全国大会で戦うことが出来ました。

全国大会の試合はほとんど全て記憶に残っていますが、正直説明するのは難しいです。予選や他の大会では毎試合10得点に近いくらい点を取っていたのに全国大会では決勝前まで平均3点くらいしか取れず、フラストレーションもありましたが常磐の野球の最大の強みは守りです。挟殺プレーや牽制の練習に1日3時間も使うチームは全国を探しても中々いないと思いますし、誰も文句を言わずに取り組み何

試合に1回あるかないかのプレーにこれだけ磨きをかけようとするところが本当に大好きです。そういった緻密なプレーの練習に真剣になっていたからこそ僅差でも焦ることなく守り勝つ野球が出来たのだと思います。決勝戦前は緊張はなく、コーチ陣も熱く送り出してくれて溜まっていたもの、出せる全てを出して日本一になった時は全員が泣いていたと思います。

長い間常磐で野球をやってきて褒められたのはこの瞬間だけなのでは？と思うほど褒められて少し焦りもありました…実感が全く湧きませんでした。その後は招待されて東京ドームでプロ野球観戦をしたり、古田さん率いるチームと野球の試合をしたりと、普通では経験出来ないような事をする事が出来て、楽しみもありました。アジア大会は軟式とは少し違うボールや距離、ルールもあり適応する事が難しかったですが異国の選手との交流やかけがえのない経験をさせていただきました。

【現役生の保護者様、選手の皆様へ】

人それぞれに色々な考え、価値観があって当然だと思います。取り組み方や学業だったり色々な事情がある中で取り組んでいる事と思いますが自分が長く野球をやってきた中でこの瞬間ほど熱く、楽しく、密度の濃い野球の時間を過ごせた事は他にありません。正直に言うと自分達の世代は小学野球で燃え尽きてしまった選手も多かったですが、最高のコーチ陣がいて、最高のメンタリティがあっただけ魂のこもった野球が出来るチームは見つからないと思います。自分の野球観の原点であり到達点が常磐の野球です。このユニフォームを着てこのチームの歴史に名前を残せた事は自分の一生の誇りであり宝物です。毎日辞めたいとか泣きながら着替えをしていたりしていた時期もみんなありましたがそれでも勝ちたくて取り組んでいました。運良く結果が出たから言える事かもしれませんが、本当に最高のチームだと思います。

自分達には120キロを投げるエースも柵超えホームランを打つ4番もいませんでした。それでも勝てたのはチームのみんなのおかげです。素晴らしいチームで野球をやれていると思いますので頑張ってください。今後の活躍を27期生一同、心より応援しています。



Y.A. 28期主将

創立40周年おめでとうございます。早いもので東日本大震災から12年が経過しました。そして自分の人生も常磐スポ少の選手から社会人になっています。仕事に打ち込む日々の中、辛い時や苦しい時があります。ですが、野球をやっていたことでどのような場面でも乗り越えることができている。野球で培った精神力、忍耐力、メリハリのある行動、チームプレーといった様々なものが社会に出て大切であると実感しました。社会に出てみると、野球も仕事も一緒だと思いました。団のモットーでもある「継続は力」という言葉があるように、日々何事にもあきらめず継続をすれば、いつかはその努力が報われる時は必ず来ます。何事も初めからあきらめず日々の野球、私生活でも継続していきましょう。これからも常磐スポ少のご活躍を心よりお祈り致します。

H.H. 28期生

この度は、常磐軟式野球スポーツ少年団創立40周年、誠におめでとうございます。私自身は、第28期生の卒業生になりますが、時間が経つのは早いもので12年の月日が流れようとしています。私は小学1年の時に入団し、高校まで野球を続けましたが、常磐スポ少で学んだ6年間は、技術だけではなく礼儀や継続することの重要性などたくさんの事を教えていただきました。当時を振り返ってみると、真っ先に思い出すのが辛かった練習と週末の遠征です。辛くて逃げ出したい時もありましたが、続けることが出来たのはチームメイトの存在や素晴らしい監督、コーチに恵まれていたからだと思います。そして全国大会という舞台上で試合をした事は私にとって一生忘れない思い出となりました。最後に監督、コーチ、

関係者の皆様、本当にお世話になりました。また常磐スポ少の益々のご活躍を心よりお祈りしております。

R.K. 29期主将

この度は40周年誠にお祝い申し上げます。「継続は力なり」がモットーのもと、私の卒団後から歩んだ野球人生ではもちろん、あの時の常磐スポ少での経験は今現在でも人生の土台になっていると感じています。当時は非常に辛かった出来事も今思い返せばあの時、様々な経験をしていて良かったと思うことが非常に多くあります。また当時を振り返ると指導者の方々、父兄の皆様にも非常に支えられて好きな野球を思いっきりやらせて頂けたのだと思います。私自身今後も常磐スポ少で学んだことを忘れず、貴団の益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。繰り返しとはなりますがこの度は誠にありがとうございます。



Y.E. 29期生

常磐軟式野球スポーツ少年団創立40周年おめでとうございます。私自身第29期卒団生として、今の私があるのは常磐キッズから始めた野球であり、常磐スポ少の首脳陣・関係者の方々のお陰だと思っています。常磐での野球を振り返って真っ先に思い出すのがあの辛かった練習です。特に冬練での走り込み・素振り・守備の基礎などは泣きながら練習した記憶があります。全体練習が終わっても家でバットを泣きながら振ったこともありましたが、でもその辛い練習を乗り越えて来たからこそ見られた景色があるのだと思っています。常磐は私にとって一人間として、一野球人として成長させて頂いた場所であり、熱く御指導頂いた常磐の首脳陣、熱い応援をしてくれた父兄の皆様には感謝しております。最後になりますが、これからの常磐軟式野球スポーツ少年団の

益々の御発展と御活躍を心よりお祈り申し上げます。



R.T. 33期生

常磐軟式野球スポーツ少年団創立40周年おめでとうございます。常磐スポ少を卒団して早くも6年半ほどたち、時の流れの速さに驚いています。先日、第43回全日本学童軟式野球大会の常磐スポ少の試合をYouTubeで観戦しました。7年前、我々33期生は学童県大会決勝で小名浜少年野球教室に敗れ、神宮球場の土を踏むことはできませんでした。しかし、1週間後のスポ少県大会、そして東北Ⅱブロック大会を経て、滋賀県で行われた第38回全国スポ少交流大会に出場できました。初めて見た琵琶湖は海と見紛うほどの大きさで、そのなんととも言えないおいと鳥人間コンテストの離陸用プラットホームが鮮明に記憶に残っています。大会は準決勝で負けてしまいましたが、全国3位という成績は誇らしく思っています。すでに野球からは離れましたが、常磐で学んだことは今も消えることなく自分の中に残っています。常磐スポ少のますますの活躍と、さらなる発展を願っております。

R.O. 34期生

私は年長の時に常磐に入り、そこから7年間、常磐の野球を学びました。その7年間で学んだ事は、私の野球人生にとって、とても大きな7年間でした。私は今高校3年生で、今回の夏の大会で私の高校野球は終わりましたが、高校野球でも常磐で学んだ事がとても活きました。それは、バントや細かい守備の動き、ピッチャーへの声かけ、次の塁を狙う走塁です。普通は学べないことも、常磐にいたことで学ぶことができました。この常磐での経験が本当に大きなものだったんだと改めて感じることができま

した。私は大学でも野球を続けます。そこでも常磐で学んだ事は、絶対に生きてくると思います。本当に小学生のとき常磐に入って野球を学べていて良かったなと思います。常磐で学んだ7年間は、楽しいことより辛いことの方が多かった気がしますが、本当に充実した7年間でした。



K.S. 36期生

40周年おめでとうございます。自分の常磐の思い出は最後の大会で勿来少年野球教室に勝って優勝したことです。勿来には全日本学童の県大会の決勝で負けてしまい、全国大会へ行くことができません、とても悔しい思いをしました。そんな自分たちのライバルだった勿来に最後に勝って優勝出来て本当に嬉しかったです。36期のみんなと野球が出来たことも最高の思い出です。自分は、常磐を卒団した後、いわきボーイズで三年間野球をして、今は茨城県の霞ヶ浦高校で野球をしています。まだ1年生ですが高校野球は大変です。部員の数が多くポジションの競争率も高いです。自分からアピール出来ないと試合にも出させてもらえません。自分は今、ベンチ入りを目指して頑張っています。常磐を卒団してから、「常磐〇〇大会優勝したよ」「常磐、全国決めたよ」と、父や同期のメンバー、後輩から聞きます。常磐の活躍を聞くと嬉しく、自分への励みになります。今、常磐で野球をやっている後輩のみなさんは辛いことや大変なこともあると思いますが、それでも諦めず頑張ってください。常磐での経験は自分の財産になると思います。応援しています。



K.O. 37期生

40周年おめでとうございます。37期は勝率が9割7分で大会ではほぼ優勝していました。その過程には常磐キッズからしてきた厳しい練習がありました。常磐キッズは練習が土日だけでしたが、居残り練習を欠かさずしていました。常磐に上がると練習が月曜以外、毎日になりましたが、37期は月曜にグリーンスタジアムの室内練習場を借りて練習していたので休みの無い野球漬けの毎日でした。特に辛かった練習は忘れもしない助監督の冬練です。少しでも手を抜いたら1周増やされるという地獄のような練習でした。この練習は一生やりたくないと思っています。でもこの練習があったからこそ大会で負けない力がついたと思います。マクドナルドトーナメントで優勝を決めて全国に向けて練習をしていく時期に全国大会が中止となってしまったとても悔しい気持ちになったのを覚えています。けど最後には37期が笑顔で終わったので少し良かった気持ちがあります。これからの活躍を応援しています。



T.W. 39期生

常磐軟式野球スポーツ少年団、創立40周年おめでとうございます。僕が野球を始めた理由は野球が楽しそうやってみたくと思ったからです。僕たちは5

年ぶりに全国大会という大舞台に立ちましたが、1回戦で負けてしまい、自分達はいい経験になりましたがとても悔しい結果にもなっていました。今も中学校で野球を続けられているのは常磐で野球を始め、勝った時の楽しさと負けた時のくやしさを教えてもらったからだと思います。中学生になると、プラスになって帰ってくるはずなので、これからも継続は力を忘れずにがんばってください。活躍を期待し、ずっと応援していきたいと思います。



K.H. 39期生

40周年おめでとうございます。僕は去年卒団しました。1年生から野球を始めて努力してきました。4年生の時は全国大会が中止、5年生の時も全国大会に出場できず悔しい思いになりました。最後の6年生の時は先輩方の思いを込めて1年間やってきました。その結果、きびしい練習にもたえて、見事県大会を優勝することが出来ました。この優勝は「一生の宝物」です。この思いでは監督、団長、OB、お父さん、お母さんのおかげであります。ありがとうございます。これからも常磐で教えてもらったことを活かして野球を頑張っていきます。そして、いつまでもいつまでも常磐を大好きでいます。応援していきます。がんばれ！負けない常磐をつくってください。





村田 繁人 常磐キッズ監督

常磐軟式野球スポーツ少年団、創立40周年。これまで「常磐」が築き上げてきた歴史を振り返りますと、その偉大さを改めて実感いたします。そして、ここまで「常磐」を育ててきた、大平団長、天井監督をはじめ多くの方々に深い敬意を表します。私は現在、常磐キッズの監督を務めさせていただいており、今年で十年目を迎えました。今、常磐キッズは、三年生7人、二年生9人、一年生6人、年長見2人の計24人で活動しています。野球人口の減少が懸念される中、常磐キッズは比較的充実した人数で活動することが出来ています。それは、団員募集にあたり、多くの方々のご協力によるものであると感謝しています。常磐キッズの活動において、力を入れて取り組んでいるのは、子供たちの頑張る力を育むことです。初めから何でもできる子はいません。できないことは、できるまで努力しなければ、できるようにはなりません。常磐キッズの指導者は、子供たちのできない原因を考え、どうすればできるようになるかを多角的に考えて指導しています。継続して努力すれば、必ず一定のレベルまでたどり着くことが出来ます。だから、子供たちの頑張る力、頑張りを続ける力を育む取り組みをしています。また、私は子供たちの可能性を信じて指導にあたっています。子供たちは、どこで大きく成長するかわかりません。それぞれに立派な野球選手になることを信じて、子供たちと一緒に頑張っていきます。今後も、子供たちが「常磐」で野球ができますよう、多くの皆さまのご協力をよろしくお願い致します。



永山 貴士 常磐スポ少コーチ

常磐軟式野球スポーツ少年団40周年、誠におめでとうございます。
社会環境、指導方法やトレーニング方法、時代の変化に柔軟に対応し40年で学童・スポ少含め35回の全国大会出場というのはとてつもない事だと思いますし、まさに「継続は力」を体現してる事だと強く感じます。私自身、常磐の11期生というOBで現在は指導者という立場で感じることは毎年、子供たちは変わっていき、能力も性格も体格も課題も違う子供たちを人間的にも野球選手としても成長させられるか、企業の人材育成と同じだと感じています。ただ一つ違うのはその対象が自律している大人ではなく小学生の子供たちだということです。だからこそ悔しければ涙を流しても良いし、理不尽なことがあれば腹もたてたって良いし、楽しければ飛びつきり笑えば良い。子供らしく必死に野球に取り組めるように指導しています。とはいえ、どうせやるからには選手たちも我々も勝ちたいという気持があるからこそキツイ言葉をかけることもあります。その点をご容赦ください。また、育成していくうえで一番難しいと私が感じる部分はメンタルです。技術云々は日々の繰り返し、体力がつけば自然とできるようになります。メンタルばかりは難しいところですが、天井監督も言うように我々の言葉一つで選手が劇的に変わるきっかけになることがある、選手が本気になった一瞬を見逃さず的確な声かけをする事で選手の自信に繋がったり、モチベーションアップや積極性に繋がるということも学びました。私自身、まだまだ未熟で勉強することがたくさんありますが、微力ながらお手伝いしていきたいと思っております。これからも45年、50年と「覇者たれ常磐」を継続していくために選手、父兄、指導者と三位一体となって頑張っていきたいと思います。



本田 雄仁 常磐スポ少コーチ

40周年おめでとうございます。私の13期の時はあと一步というところで全国大会に届かず悔しい思いをしました。しかし、我が子が39期で全国大会出場を果たしてくれてとても嬉しかったです。今年は父母という立場からコーチとしての立場に変わり子供達の一番近い場所に立ちサポートしてきました。今回の経験を活かし今後も自分と同じ思いをさせないためにも子供達に寄り添い個々の良さを引き出せるように頑張っていきたいと思えます。これからも地域の方々に協力し支えて頂き愛されながら常磐の名が全国に注目されることを願っております。



佐藤 雅彦 常磐キッズコーチ

常磐軟式野球スポーツ少年団40周年おめでとうございます。自分は9期生キャプテンで第12回全日本学童軟式野球大会に出場しました。結果は一回戦で福岡県に負けてしまいましたが、野球が下手くそでも目標をしっかりと、諦めない事で全国大会に出ることができたと思います。今はコーチとして継続は力の大切さを後輩たちに伝えていけるように精進したいです。



遠藤 洋 常磐キッズコーチ

更なる進化を目指して

常磐軟式野球スポーツ少年団、創立40周年誠にありがとうございます。これまで長きにわたり、常磐スポ少に携わって来られた関係者の皆様に敬意を表します。私も長男と三男が常磐スポ少にお世話になり父兄としても中身の濃い常磐の活動を経験させていただきました。天井監督、キッズ村田監督にお声がけいただき、長男の高校野球が終わった2018年11月から常磐キッズのお手伝いをさせていただいています。キッズの子供たちもそれぞれに性格が違い面白いものです。如何に子供たちに野球を好きになってもらうかを心掛け日頃から接しています。私は学童野球の魅力というのは、必死になってボールを追いかける姿やできなかったことができるようになった瞬間があることだと思います。私は毎年、3年生を常磐に送り出すときに「いつもみんなを支えてくれるお父さんお母さんに感謝の心を忘れないこと」と伝えますがキッズの子供たちがどれだけ理解してくれているかは分かりません。しかし、いつかあんなことを言っていたなと分かってくれる日がくれば良いと思っています。親への感謝の心や仲間思いやる心、日頃から自分自身を高める心を持つことが私は自然とプレスタイルに表れてくるものだと思います。これからもキッズの子供たちがどんな選手になっていくのだろうと楽しみにしたいと思います。最近少し慎重になりすぎて、何事に対しても失敗しないように取り組む向上心が薄れてきている子供が増えてきている印象も持ちます。上手いかないことは沢山ありますが、時に悩み、苦しむことも経験として前向きに捉え、まずは失敗しても挑戦する気持ちを持ってほしいと思っています。常磐で経験したことは、この先自分自身の大きな財産となるはずで。今後も「継続は力」をモットーに常磐スポ少が更なる進化を目指して50年、60年と発展することを祈念致します。



早坂 浩 常磐キッズコーチ

団創立40周年おめでとうございます。25期と27期では大変お世話になりました。この経験の恩返しにと盛り上げ役コーチとしてJOBAN-Kidsに加わりました。日々、監督・先輩コーチと戦手、父ちゃん母ちゃんに学びながらの練習は気付きと思考の連続で刺激的な時間です。練習では1年生組と体験組の専従として野球ってスポーツにふれてもらおうと戦手と共に走り回っております。たまにオーバーヒートしますが…。40年。たくさんの戦手が巣立ち今この時間も其々のグラウンドで試合の真っ最中だと思います。ここで学んだ継続は力なりと行動なき者成果なしを心柱に自分なりの勝利を掴み取って欲しいと思います。もし迷ったらときわ台へきてみて。前に進むキッカケが、ここにありますから。



笹川 幸夫 常磐スポ少コーチ

創立40周年記念誠におめでとうございます。代表、総監督、監督、コーチ、大変な努力と苦勞がありました。おめでとうございます。そして保護者の皆様ここまでの歩みには大変な努力と苦勞があったと思います。心よりおめでとうございます。チームを卒業された多くの選手のみなさん様々な思い出があったことと思います。おめでとうございます。そしてこれからの将来多くの子供たちの夢、目標と挑戦される選手のみなさん、今後なお一層躍進される事を願っております。常磐軟式野球スポーツ少年団の皆様、「40周年記念」心よりお祈り申し上げます。おめでとうございます。



小室 昭彦 顧問

40周年に思うこと

創立40周年誠におめでとうございます。小学校2年生の息子が入団したのは、全国交流大会で初優勝した年の平成3年の秋で、近所に住む渡辺大地が活躍していたのがきっかけでした。当時の常磐は、勝つのが当たり前で、負けて悔し涙を流した時の方が、良く記憶に残っています。例えば、平成6年の全国交流大会の会場が四国の高松という事もあって、1年前から旅行費用を積み立て、主戦の永山、控えに5年生の山形とサウスポーの2枚看板を掲げ、万全の体制で臨んだ東北大会決勝であったが、磐崎スポ少にまさかの0-1で敗れ四国旅行が瀬戸の渦潮に飲まれてしまい、泡と消えてしまったことなどが、未だに鮮明に覚えています。やがて息子は12期生として卒団いたしました。私は大平野球の虜になってしまい、以来長年に渡って、事務局として携えることが出来ました。途中、2度の大病に襲われながらも今、ここにいられるのは大平代表をはじめ、各年代のご父兄の皆様の暖かいご支援、ご協力があったればこそと、有難く厚く御礼申し上げます。さらに、指導陣では石川さん、稲川さん、金成さん、佐久間さん、好美さん、永山さん、似内さん、事務局の石井さん、大畑さん、皆さん本当に有難うございました。最後に、今後の常磐を支えて下さる、大平団長、渥見代表、天井監督、はじめ指導者、事務局の皆様、キッズ指導者の皆様、色々とお苦勞あると思いますが、大きな夢に向かい一致団結して大平野球の継承と子供たちの健全育成にご尽力頂きたく、宜しく願い申し上げます。お粗末ながら、「常磐の勝利を願って、サンサンナナビョー……シ」パッパッパ、パッパッパ、パッパッパ、パッパッパ。頑張れ、頑張れ、常～磐！有難うございました。



吉田 宏一 事務局

常磐軟式野球スポーツ少年団の創立40周年に心よりお祝い申し上げます。私はチームのスタッフとして関わらせて頂いたことに、誇りと喜びを感じております。常磐軟式野球スポーツ少年団との出会いは、天井監督に誘われ「ときわ台」の練習に参加した時から始まります。当時は、軽い気持ちで練習に参加しましたが、監督やコーチの熱い指導、それに答えるべく、選手一人一人がよく考え、質の高い練習をする姿を目の当たりにし、自分の野球感が一変したことは、今でも鮮明に覚えています。野球というのは、難しく考えても出来るし、考えなくてもどちらでも出来ます。監督や選手が深く考えても考えなくても、投げて打って走ることが野球であれば、野球は野球という考え方で成立します。しかし、野球は試合なのでどうしても勝者と敗者が生まれます。負けて嬉しい人は誰一人といません。目的を達成するためには、勝者にならなければなりません。最後の最後で勝てるか勝てないか、優勝出来るか出来ないか、それは紙一重な事で、そのためには、普段から「強い気持ち」「考える力」「感じる力」意識して練習することが重要であると、そのすべてを「常磐野球」は教えてくれました。それから私は、19年間指導者として携わることになるのですが、常磐軟式野球スポーツ少年団を通して得た、数々の知識や経験は大きな財産となり、人間的にも技術的にも大きく成長することができました。心から感謝しております。ありがとうございました。これからも常磐軟式野球スポーツ少年団の更なるご活躍を期待しております



佐藤 正和 事務局

常磐軟式野球スポーツ少年団40周年おめでとうございます。36期生の長男からお世話になり37期から事務局として携わっています。常磐スポ少の長年に渡る数々の栄光をたたえるとともにその一員としてこれからも微力ながら尽力していきたいと思えます。また、日ごろから団員、並びに団をサポートして下さる父兄の皆様へ感謝を申し上げます。今後よろしくお願い致します！

令和5年度保護者会長より



永井 孝司 40期父母会会長

ご挨拶

常磐軟式野球スポーツ少年団、創立40周年記念。心からお慶び申し上げます。創始以来たゆまない熱意の、大平団長をはじめとした歴代、現首脳陣。その方々の団結力と、天井監督の的確かつ厳しい指導のもと、今年も高円宮賜杯全日本学童軟式野球大会、全国大会出場を見事に果たす事ができました。大会結果としては、第二回戦1-0の敗戦と残念な結果に終わりましたが、『守備の硬さ』を全国にも領かせる、素晴らしい試合を見せてくれたと思っております。最高目標を遠目で見る形となりましたが、最後まで力を出しきり、感動をくれた選手たちを大いに称賛すると共に、生涯忘れる事のない、輝かしい経験と、最高の思い出を頂いた事を大変嬉しく思っております。OB、OB父母の方々、全ての関係者が大切に育てられた常磐軟式野球スポーツ少年団に巡り合い、沢山の皆様のお力添えを頂きながら、素晴らしい野球生活を送らせて頂いている事を改めて深く感謝し、御礼を申し上げます

ます。選手たちが【感謝】の気持ちと【常磐魂】を胸に、残された【JOBAN】との時間を、さらにはこれからの野球人生を謳歌してくれる事を願い、また常磐軟式野球スポーツ少年団の更なるご発展とご活躍を祈念致しまして挨拶とさせていただきます。

令和5年度常磐キッズ父母会長

凄いこと

常磐軟式野球スポーツ少年団40周年おめでとうございます。しっかりとした結果を残し40年やってきた事に対し、一番に凄いのはやはり大平団長だと思います。

何もないゼロスタートから、一つ一つ形にして行く事がどれだけ大変な事か、雲をつかむ思いだったと思います。二番に凄いのは、子供達に野球を指導する監督やコーチだと思います。仕事と家庭を持ちながら、残された時間を自分の子以外の子に時間を注ぐ、四年生以上の練習内容はわかりませんので書きませんが、キッズに関して言うと野球の「や」の字も知らない子に対し、野球を教えるというのは型に水を入れ凍らせるのと一緒で、このスタート期に覚える事がその子の野球の型になってしまい、言葉やイメージで教えるのではなく、しっかり子供が理解しなければ動けない。出来ないのは監督やコーチの責任の覚悟をもってしっかりとした指導をして下さり、本当に頭が下がります。三番に凄いのは、事務局の方々だと思います。あまり子供達や父母会の前には、団長や監督、コーチのように姿はみせませんが、しっかりと裏で団を支えて下さっていると思います。四番に凄いのは、父母会の皆様だと思います。職種や考えライフスタイルの違う大人が、一人一人子供の為、団の為と一致団結して同じ方を向き進んでいる。普段の生活ではあり得ない事だと思います。五番に凄いのは子供達だと思います。野球を始めたきっかけは本当に小さなきっかけだったと思います。それが遠々と続くゆるやかな雪の坂を小さな雪の玉が転がるように、一日一日大きくなりこれから先どこまで大きくなるのでしょうか。六番に凄いのは、OBやその他団の力になってくれた方々だと思います。今ペンを止めて書いた文面を見直したところ、凄い人たちが一番から六番まで出てきましたが、順番なんてつけられないですね。一番も六番もないです。常磐軟式野球スポーツ少年団にいる人全員が一番なのですから。

一人一人の力なんてたかがしれてると思います。この常磐の40年はその一番の全員がだしおしみなく自分の出来る事を一生懸命やってきた力の固まりだと思います。今はまだ40年の固まりですが、常磐軟式野球スポーツ少年団は随時団員を募集しており、これから先が、この一番の人がもっともっと増え、もっと大きな50年の固まり、60年の固まり、いや100年の固まりができることを願っています。

編集後記

はじめに40周年記念誌発行に関してお忙しい中、寄稿のご協力をいただきました皆様、ならびに各年代のOB父母会長様にお礼申し上げます。20年ぶりの記念誌発行という事で、手探りの部分が多く、いたらない点が多々あった事は本当に申し訳なかったですが、こうして形に出来たことに安堵しております。それも、在団父母、OB、OB父母の「常磐愛」があってこそだと改めて感服いたしました。

この記念誌を通して現・卒団員ひとりひとりの常磐に対しての思い、自分の野球への思いが後世に残る1ページになってくれれば幸いです。

40周年記念誌編集委員会

令和6年1月発行

JOBAN
40 juniorbaseballclub
th ANNIVERSARY